

## 時代を越え、国境を越えて愛される花

### ルーツは7000万年前!?

見た目の美しさと魅惑的な香りで、多くの人々を魅了しているバラ。起源は約7000万年前にさかのぼるとされています。また、最古のバラの化石は約3500万年前のもので、北半球各地に分布していた様子。紀元前のバビロニアでは、すでに香料や薬用としてバラが栽培されていたようです。かのクレオパトラは、愛する人・アントニウスを迎えた際に宮殿全体をバラで飾り、自身はバラの花びらを浮かべて入浴を楽しんだとか。有名な絵画「ビーナス誕生」では、バラの花を降らせることでビーナスの誕生が祝福されています。

### ナポレオン1世夫人が大活躍!

バラは現在までに2万種以上が誕生し、今なお世界中で毎年200以上の新しい品種が発表されています。こうした品種改良に貢献したとされているのがナポレオン1世の妻・ジョセフィーヌです。パリ郊外の宮殿にヨーロッパ中のバラを集め、たくさんの園芸家に品種改良を行わせて、世界初の人工授粉に成功。品種改良の基礎を築いたと言われています。

### 世界に注目される日本のバラ

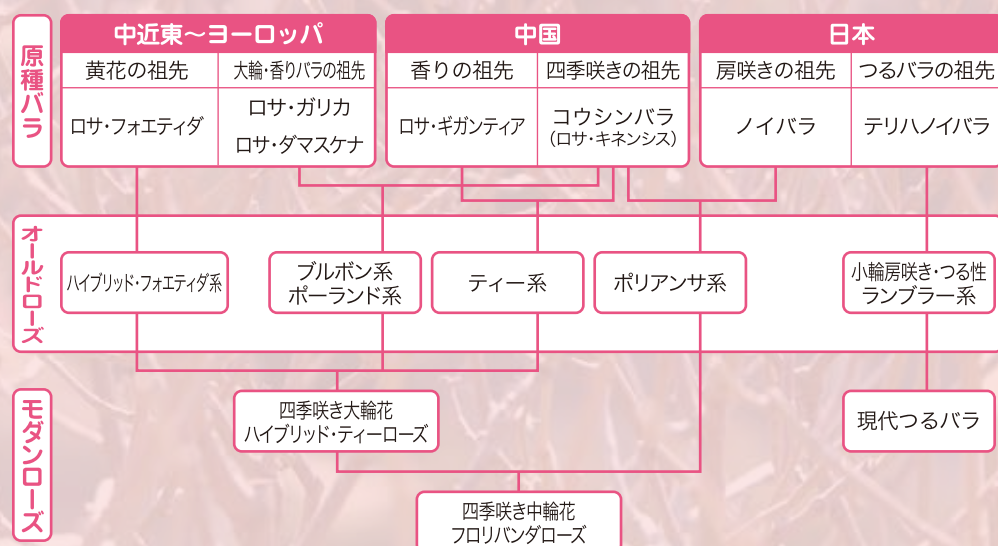
バラと言えば西洋のイメージが強いですが、中国を中心としたアジアでも古くから栽培され、その一部はヨーロッパに伝えられて四季咲き性をもたらすなど、現代のバラを語る上で重要な役割を果たしています。日本には15種類の原種バラが自生し、日本最古の歌集「万葉集」には「うまら」と詠まれたノイバラが、「古今集」には「薔薇(さうび)」が登場。近年にはいけばなや盆栽などでも用いられており、日本で生み出した新品種(ローズ・オオサカ、天津乙女、鶴見'90、藤娘など)が世界のコンテストで受賞するなど人気を博しています。

●日本の原種バラ



ヤマイバラ サンショウバラ コウシンバラ

#### バラの系統図



※系統図を簡略化しています。実際には、これら以外の原種や交雑種も加わり、様々な品種が複雑に絡み合っています。

特集 あなたは観る、飾る、それとも咲かせる!?

# バラ色に染まる ライフスタイル!

やさしい陽射しと心地よい風が頬を撫でる季節。花見桜の名残りを惜しむ頃、私たちを楽しませてくれるのがバラです。とくに大阪は市内に5カ所も「バラ園」があり、アジアで初めて「世界バラ会議」が開催されるなど、バラを愛でる文化が根付いています。これから始まるバラ色の季節を思う存分エンジョイしましょう!

